

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ゆうあいくらぶ 放課後等デイサービス					公表日	令和 8年 2月 2日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	3	ホールの延べ床面積は、十分となっているが、実際に利用する児童(車椅子使用の児童含む)の状況により、スペースが狭いと感じることがある為、廊下を使用するなどして工夫している。		週に2日以上利用している児童に関しては、活動に制限をかけなければならない事もあるため申し訳なく思っている為検討していく。人が多いと、活動範囲も狭くなり、児童の遊びに制限がかかる為、今後も検討しながらより良い環境作りを心がけていく。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3	適切であると思うが、日によっては、1対1でかかわらなければならない児童が多い日もあり1対4などの状況もある。職員同士声を掛け合い、事務所にヘルプを出すなど工夫している。		1対1対応が多い中、それでも職員が多いという意見が出ると、どうすることもできない。職員の配置は適切だが、1対1で関わらなければならない児童が多い日は、職員が少ないと感じる日がある為状況に応じて増員を望む。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2	建物構造上、変更が難しい為、今後も児童、職員が工夫しながら対応していく。		脱衣所、浴室が障害者向けになっておらず、児童、職員に負担がある為改善を望む。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		児童、職員ともに分かり易い構造になっている。限られたスペースを有効に活用する為、最大限の構造化を図っている。		活動内容によってはパーテーションで区切ったり、支援室などを利用しながら宿題や、クールダウンのスペース確保を行っているので今後も継続していく。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		緊急時や、体調不良、情緒不安、宿題など、必要に応じた場所を確保している。		今後も継続していく。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	全職員が集まることがなかなか難しい為、朝礼などをを利用して短時間でも話し合いができるよう工夫している。		定期的に設けている事業所会議や、支援会議を有効活用しながら検討していく。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		家族の思いに寄り添えるよう努力している。		アンケートを実施しているので、その評価結果をもとに、今後の事業改善に努めていく。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		定期的に事業所会議や支援会議を設けたり支援の合間に情報共有するなどの工夫をしている。		事業所会議や支援会議の機会を定期的に確保する等、情報共有しながら業務改善に努めていく。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	年2回の報告会を設けて、第三者より評価を受け、その結果をもとに職員間で検討し、業務改善に努めている。		今後も、第三者による外部評価の結果を業務改善につなげていく。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部研修や、法人研修の他、オンライン研修等にも参加している。		今後も積極的に研修に参加し、職員のスキルアップを図っていく。	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		令和6年11月よりホームページにて公表しました。		令和6年11月よりホームページにて公表しました。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		ご本人、ご家族様の希望に沿った内容で作成するよう努めている。		今後も利用児と保護者に寄り添う計画書の作成に努めていく。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	職員全員で話し合える時間の確保が難しく感じるが、時間の無い中で、工夫しながら支援会議を行い、情報共有のもと児童の最善の利益を考慮した検討を行い計画書作成につなげている。		今後も、職員の共通理解のもと、保護者(児童)のニーズに合わせた計画書を作成していく。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	3	内容の共有が不十分な点もあるので、事業所会議や支援会議の中で職員全員に情報共有が行えるよう検討している。		支援会議で児童発達支援計画を共有し、計画に沿った支援をしているか検討する機会を設けていく。 サービス計画が共有できたら、より良い支援ができるような気がするので今後検討していく	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		現行のアセスメントにて課題を取り出している。		今後も継続していく。	

	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	1	児童発達支援管理責任者が中心となり、児童の状況に応じて職種を選び対応している。	今後も、日々の連絡方法や、モニタリング時に丁寧な説明を行っていく。
適切な支援の提供	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	全員集まれる機会が少ない為、短い時間でも話し合いを持つよう工夫し、個々に意見を出し合って検討している。	定期的に設けている事業所会議や支援会議を有効活用しながら検討していく。
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		毎回楽しく活動できるよう工夫している。	今後も、楽しく活動ができるよう職員間で意見を出し合いながら検討していく。
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		実施している。	今後も利用児の状況に応じた対応を心掛けていく。
	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	朝礼等を含め、前回支援からの気付きを共有したり、保育所や幼稚園からの申し送りを共有しながら、その日の動き方の確認をしている。 適宜職員間の情報共有に努めている。	今後も朝礼等を含め、随時情報共有に努めていくとともに、申し送りの方法を再度検討していく。
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	5	支援終了後は職員も送迎に出てしまう為、中々時間が取りにくい現状がある為、翌日の朝礼で、支援の振り返りや気付きの共有を行うなど工夫している。	その日の支援の振り返りは必要だと思うが、送迎や、各自の業務で時間が取れない為、支援会議で話し合っている現状があるので検討していく。
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		支援終了後は必ず記録を取るよう徹底している。	今後も日々の支援記録の徹底に努めるていく。
	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期以外でも必要に応じて面談を行っている。	今後も定期的なモニタリングを実施し、支援内容の見直しを保護者とともに考えながら、より良い支援につながるようにしていく。
	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5	1	4つの基本活動を盛り込んだ支援内容に沿ってひとりひとりに対応している。	今後も継続していく。
	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		好きな活動が楽しめるよう、バラエティーに富んだ遊具や教材を準備し、ひとりひとりが自由に選択できるよう工夫している。	今後も継続していく。
	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理者が中心となり対応している。	今後も児童発達支援管理者が会議等に参加し、その結果を情報共有していく。
関係機関や保護者との連携	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		看護師と児童発達支援管理責任者が中心となり対応している。	今後も継続していく。
	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		実施しているが、下校時間変更等の連絡をいただけない家庭もある為、その場合は学校へ連絡して正しい情報を得るようにしている。	今後も、保護者から情報が第一であるという事を伝えていく。
	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	随時、情報収集を行っている。	今後も継続していく。
	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		切れ目のない支援継続の為、情報提供を行っている。	今後も継続していく。
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2	外部の研修に参加したり、上山療育センターの研修(zoomを含む)などを受ける機会を設けている。※南陽市内に児童発達支援センターがないのが実情。	南陽市内に児童発達支援センターが無い為、今後も継続して各関係機関との連携を図っていく。
	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。		5	下校時の送迎等で職員が手薄になる状況があり中々実施できていない。今後、何らかの形で交流の機会を設けていくよう検討している。	各学校、学年で、下校時間が異なる為、全員集まってからの交流は難しい。
	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1	サービス提供範囲の行政機関と連絡を密に取るよう心掛けている。	今後も継続していく。
	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		おたより帳や面談、モニタリング等を通して状況を伝え、共通理解のもと支援につなげている。	今後も継続していく。

	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4	職員のスキルアップが必要となる為、今後も研修等に参加しスキルの向上を図りつつ、家族支援につなげるよう努めている。	今後も継続していく。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に分かりやすく丁寧に伝えている。	分かりやすく丁寧に説明することは大事だと思うので今後も継続していく。
36	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		アセスメントやモニタリングの他、必要に応じて意思の確認を行っている。	保護者が話しやすい環境の設定を行なながら、家族の意向が確認できるよう今後も継続していく。
37	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		モニタリング時に計画書を提示しながら支援内容を確認して同意を得ている。	今後も継続していく。
38	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		必要に応じて迅速に対応している。	今後も、継続しながら、よりよい子育てができるようサポートしていく。
保護者への説明等	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	6	保護者会(父母の会を含む)は、組織化していない。但し、地域貢献として令和6年1月24日よりおもちゃ図書館を開催している。	おもちゃ図書館を今後も継続しながら、地域交流の場を提供していけたらいいと思う。保護者会は、学校関係で時間を取りうるので、今後も実現は難しいのではないかと思う。
	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情対応は準速かつ丁寧に対応するよう努めている。	遅延なく対応できるよう今後も務めていく。
	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		不定期ではあるが、ゆうあい通信を発行している。また、法人広報誌を年3回発行している。	不定期ではなく、定期的に通信を発行できないか検討していく。
	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報管理規定に基づき管理している。	今後も、情報の流出がないように、管理規定に基づいて管理していく。
	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		全職員が、児童や保護者ひとりひとりに合わせた対応を行うよう配慮している。	今後も継続しながら配慮していく。
40	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	おもちゃ図書館を開催することにより、地域住民を招待する機会が増えた。おもちゃ図書館の広報誌を、市内各施設等に置いていただいたことで、市外からの利用者も増えた。	おもちゃ図書館を開催することにより、地域住民を招待する機会が増えたことはいい事だと思うので継続していく。
41	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		緊急時対応マニュアルを作成しているが、想定訓練は職員のみ行っている。保護者への周知徹底は検討中。 ※緊急時対応や避難訓練等を実施できたので、今後様子を観ながら回数を増やしていく。	災害マニュアルを分かりやすく開示することはできないのか、今後も検討を重ね、より良い方法で開示できるよう努めていく。
42	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		実施している。	今後も、内容を検討しながら、より安全に避難できる体制を整えていく。
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		初回アセスメントでの聞き取りの他、通院状況及び服薬状況を看護師のみではなく、職員全体で、周知徹底し対応している。	今後も継続していく。
非常時等の対応	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		指示書がある学童の場合には、その内容を看護師含め全職員で情報共有し対応している。	今後、アレルギーのある児童の利用がある際には、厳重に対応していく。
	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		内部研修等で技術の向上を図っている。また、定期的な防災訓練の他、定期的に室内外の環境整備を行い、安全管理に努めている。	今後も、研修等に参加し、安全管理が行き届いた環境の中で支援を行っていく。
	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3	事業所としてマニュアルを整備し、安全計画に基づく取り組み内容について、今後ご家族に周知できるよう検討している。	より早く家族に周知できるよう検討していく。
	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットが発生した際には、保護者への連絡を迅速に行い、必ず記録を作成し全職員への情報共有と再発防止に努めている。	今後も、保護者に対して迅速な対応を行ながら、再発防止につなげていく。
	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		法人としての定期的な研修の場があり、虐待防止マニュアルを整備している。	全職員が周知するよう努めていく。

54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	2	3	事業所としてマニュアルを整備し、今後、身体拘束を必要とする児童の利用がある際にはマニュアルに沿って対応していく。	ご家族の意向と、マニュアルに沿って対応していく。
----	----------------------------------------------------------------------------------	---	---	----------------------------------------------------------	--------------------------